

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	T-LOGI 綾瀬	階数	地上4F・地下0F
建設地	神奈川県綾瀬市深谷上8丁目6626番1, 6627番1, 6628番1, 6629番, 6630番, 6631番1, 6632番1, 6633番, 6634番, 6635番1, 6636番1, 6637番1	構造	S造
用途地域	工業専用地域・市街化区域	平均居住人員	364 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2022年4月11日
敷地面積	11,662 m <sup>2</sup>	作成者	秋山 晶
建築面積	6,377 m <sup>2</sup>	確認日	2022年4月11日
延床面積	25,065 m <sup>2</sup>	確認者	萩原 武典



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

**LR のスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		
総合	神奈川県綾瀬市に計画された物流倉庫である。広大な敷地にも関わらず積極的に緑地を設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。	その他 0
Q1 室内環境	・評価対象外	Q3 室外環境(敷地内) ・広大な敷地の外周部は積極的に緑化を行い、生物環境の創出に配慮する。
LR1 エネルギー	・LED照明の採用により、エネルギー使用量削減に配慮する。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。
	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 ・十分な階高を確保し、空間の対応性・更新性に配慮する。	
	LR2 資源・マテリアル ・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材を採用し、非再生資源の使用量削減に配慮する。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
T-LOGI 継続

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄					全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.6</b>		
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43			<b>3.7</b>		
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>			3.3	0.50		3.3		
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			4.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		断熱鋼板サンドイッチパネルを外装材に採用	5.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペットや岩綿吸音板等の内装材を採用	5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VLP(B)、排水:VP(B)、冷媒:銅管(C)、Eの使用なし	5.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20				
2.4 信頼性			3.4	0.20				
1 空調・換気設備		吊配管による地震対策、重要室の非常時換気運転の採用	4.0	0.20				
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20				
3 電気設備		非常用発電機及び無停電電源装置の設置等	4.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20				
5 通信・情報設備			3.0	0.20				

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>4.2</b>	0.50	-	-	<b>4.2</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床積載荷重は4500N/㎡以上、かつ大はり等も割り増しあり	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.57</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	自生種の採用や植物銘板設置等による生物環境の創出	<b>5.0</b>	0.30	-	-	<b>5.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>4.1</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.6</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	標準入力法 BPI=0.61	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	標準入力法 BEI=0.35 かつ太陽光発電	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
	集合住宅以外の評価		<b>4.0</b>	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	主要な用途別エネルギー消費量が把握できる計量を計画	4.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	管理体制の構築及び目標値を設定	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	衛生器具の過半に節水器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル:床、岩綿吸音板:天井、フリーアクセスフロア:床	5.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出した木材を天井材に採用	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材は容易に分離可能で、かつOAフロアを採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含まない材料を4種類使用	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>3.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出率48%	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>3.7</b>	0.33	-	-	<b>3.7</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼設備の使用なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>4.0</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	ごみ分別容器的設置及び減容機器の設置等	5.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明についてチェックリストの過半を満足	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	13.0	-	2.0	2.0	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	-	1.0	1.0	3.0	1.0	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0	-	1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	3.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 30 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 6.05 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 8.1%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 15000 N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 62% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 45% 水平投影面積率 14% 地表面対策面積率 34% 舗装面積率 29%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.61 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.35 住宅 - 太陽光 554.4kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 .0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 ビニル床タイル・岩盤敷き等の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 100.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 123% 隣棟間隔指標Rw 1.32 地表面対策面積率 53.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 2.751㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 109.024 m 基準高さHb 20.464 m 緑地 1.854㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡